

寄託文書紹介9

岡田純一家文書

岡田家は、天正年間に飛山城主であった芳賀氏の旧臣の家柄で、主家の改易後、東水沼村に帰農土着しました。堀や垣根を回らした屋敷は、今も当時の姿をよくとどめています。

近世の領主の下でも村役人として重用され、芳賀郡の結城藩領の中でも屈指の名主であり豪農でした。その経営は、農業以外にも、穀屋や酒造・金融業を兼ね、多くの奉公人を抱えていました。従って、当家に保存されてきた古文書は、典型的な名主文書ですが、この中には酒造経営など、当

時の豪農の諸営業の様子を伝える史料が多く含まれています。また、前地関係の史料が多いのも特色の一つです。史料点数は、約八千七百点、その大部分は現在、当館に寄託され利用することができますが、これまで岡田家では保存のために毎年、蔵から出して虫干しを続けてきたそうです。

ところで、当家の文書のもう一つの特色は、宗山や亀山など、地域の文化人でもあった歴代当主が集めた和漢の書籍や作品が多く残り、近世の地方の教育や文化の実情を伝えていることです。特に、俳諧や狂歌の研究には貴重な資料が少なくありません。

代々蓄積されてきた蔵書は、一八五〇年（嘉永三年）の頃には、三百四十四点、千三百八十巻を超え、

これらは十五箱に分けて収納されていきました（「諸書物表韻書控帳」）。一八七七年（明治十年）になると、書名・巻数のはっきりしているものだけでも二百二十八点、千二百四十三巻ですが、その他に医書をはじめ多くの雑書がありました。やはり十五箱に収められていたが、各箱の書籍は嘉永三年の時とは異なっています（「書籍控簿」）。

それは、村々の子供たちへの教育は勿論、結城藩士の子弟にも教授した当主もいたということですから、随分と利用した結果でしょう。

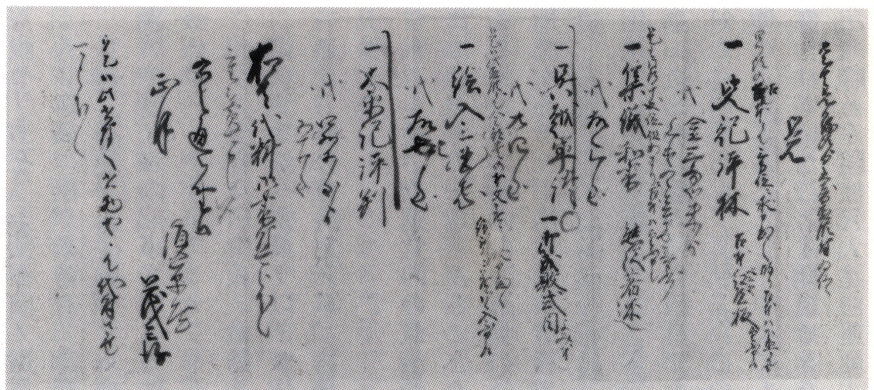
古文書の中には、書籍購入の際の書状や受取も残っており、差出者の中には、江戸最大の書物問屋であった須原屋^{すわらや}茂兵衛やその一門の須原屋伊八などの名も見られます。（竹末広美）

第二番箱の書籍

越後騒動記	20巻	※
史記	30巻	※
慶安太平記	2巻	
保産道志類辺	3巻	
標題徐状元補注蒙求	3巻	※
松島図誌	1巻	※
武士訓	5巻	※
東江先生書話	1巻	※
新古今和歌集 後編	2巻	
開運録	5巻	
鶉衣	6巻	※
通俗西遊記 後編	7巻	※
通俗西遊記	6巻	※
古文真宝	2巻	
三考釈義 初編	1巻	※
武林隠見録	9巻	※
北条九代記	12巻	※
女源氏教訓鑑	1巻	※
東国旅行談	5巻	※
中庸 平仮名附	1巻	※
論語 但破本	2巻	
護国女泰平記	2巻	
東遊記	4巻	※
北遊記	4巻	※
世事談	5巻	
論孟	8巻	※

（明治十年調べの「書籍控簿」から作成、※は寄託文書中にみられるもの）

目録	文書番号	寄託点数	文書点数	所在地
第三集（一部掲載）	二十一番	八、六五八点	八、七六二点	芳賀町東水沼二三〇〇
				栃木県史料所在目録



須原屋茂兵衛の書付